

仙台青葉学院短期大学看護学科卒業生の 大学等における学び直しに関する意識調査

A SURVEY OF REEDUCATION IN GRADUATES FROM SENDAI SEIYO GAKUIN COLLEGE OF NURSING

田林 暁一¹⁾、吉川 法生²⁾、高野 宏輝³⁾、
小野瀬剛志⁴⁾、藤田奈美子⁵⁾、猪狩 朋美⁶⁾、齋藤ひろみ¹⁾

Kouichi TABAYASHI, Housei YOSHIKAWA, Kouki TAKANO
Takeshi ONOSE, Namiko FUJITA, Tomomi IGARI, Hiromi SAITOU

キーワード：意識調査、学び直し、看護師

Key words : Survey, Reeducation, Nurse

要 旨

仙台青葉学院短期大学看護学科卒業生（一期生～五期生）を対象に学び直しに関する意識調査を質問紙の回答方式で施行した。配送数294通中、61通で回答が得られ、回答率は20.7%であった。回答者の96%が看護師として勤務しており、勤務所在地は宮城県が多数を占めた。意識調査結果では85%が学び直しを希望し、その内容としては専門的知識の習得、実践力・応用力の向上が高かった。学び直しの機会を阻害する高い要因は費用、勤務と受講の時間調整の困難性、学び直しをすることに対する職場の理解不足であった。

今後、学び直しの機会を増やすには個人の努力の他に、職場、学び直しのプログラム提供校、また公的機関の援助が重要と考えられた。

1)仙台青葉学院短期大学 看護学科、2)仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科、3)仙台青葉学院短期大学 ビジネスキャリア学科、4)仙台青葉学院短期大学 こども学科、5)仙台青葉学院短期大学学長室、6)仙台青葉学院短期大学 運営管理センター
受理日：2017年9月30日

I. はじめに

グローバル化の進展に伴い、ヒト、モノ、情報の国際的活動が活発になる中で新たな状況に対応できる人材の養成が課題になってきている。急激に変化する職場環境で働いている人たちが今後も活躍し続けるためには、知識・スキルの新規取得や更新が必要である。その一つの方向性として社会に出た後も多様な全ての人が、都市でも地方でも学び、輝き続ける社会を実現するため、大学院、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校が社会人向けのコースを設定して、社会人や企業等のニーズに応じた実践的、専門的な教育プログラムを提供することが計られつつある¹⁾²⁾。

本研究の目的は仙台青葉学院短期大学看護学科を卒業して社会人として勤務している方々が学び直しをする際の問題点、希望する教育課程、勤務先への要望事項等について調査することである。

II. 対象と方法

仙台青葉学院短期大学看護学科卒業生[一期生(平成24年3月卒業)～五期生(平成28年3月卒業)]を対象に学び直しに関する意識調査を質問紙の回答方式で施行した。調査は質問紙による意識調査とし、調査対象者に郵送し、返信用封筒により回収を行った。学び直しに関する意識調査の質問項目数は18項目数とし、質問9、13、14、15、16、17、18は複数回答可とした(表1)。調査期間は平成28年12月27日から平成29年1月16日とした。

III. 倫理的配慮

質問に対する回答は自由意志によるものとした。また、回収した意識調査結果は統計的に処理し、得られた結果は個人が特定されないように取り扱いに配慮する旨を意識調査依頼時に文章で説明した。

IV. 結果

1. 回収率

発送数は327通であったが、住所不明で33通が返送され、配布数は294通であった。配布数294通中、回答が得られたのは61通で、回答率は20.7%であった。

2. 意識調査結果(表1)

回答者の年齢分布は25歳未満が59%と最も多く、25歳～30歳未満が25%、30歳～35歳未満が11%であり、性別では91%が女性であった。勤務体系は91%がフルタイムで働いており、看護師として勤務している人が96%と大多数を占めた。役職では一般社員・職員クラス相当が94%であり、30歳未満の回答率が高かったのと一致する結果であった。所属する会社、事業所の総従業員数は101人～5000人規模の施設にほぼ均等に分散しており、所在地は宮城県が64%と多数を占めた。学び直しを行う際の職場への希望に関しては通学期間を長期有給休暇とする、また受講が優先できるような勤務体制への要望と授業料等の援助を希望する割合が高かった。学び直し後の職場への希望では給与や手当への反映、また希望する部署への配置転換の希望が高かった。学び直しに関しては必要と思う、および条件を整えば是非受けたいを合わせると85%が希望し、学び直しの期間に関しては5年毎に6ヶ月間が最も多かった。学び直しを阻害する要因は費用が高すぎる、勤務時間が長くて十分な時間がない、職場の理解が得られないが高率であった。学び直しを通して身につけたい知識・技能・資質では専門的知識が最も高く、リーダーシップ・実行力、応用力・柔軟性も高い傾向があった。大学等のカリキュラムとして特に重視してほしい内容では実務に必要な専門的知識・技能の習得、応用・実践問題の研究・学習が可能な内容、特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容への要望が高かった。大学等で特に重視してほしい教育方法に関しては専門知識・基礎知識の復習、最先端の講師による講義、実習・演習を希望

する人が多く、専門性と実践能力の向上への関心度の高さが見られた。大学等において教育環境面で特に重視してほしい事項では授業料、期間、開講の時間帯、休学や退学・再入学への柔軟な対応への要望が多く見られた。

V. 考察

今回の意識調査で看護師として病院等で勤務後、学び直しを希望する人が多いことが明らかとなった。この背景として勤務状況への不満、働きながら感じる種々の不安や悩みの改善、そして働き続けるための一つの手懸りが学び直しをすることで得られるのではないかという思いが反映しているように感じられた。学び直しの内容については専門的知識の習得、基礎的知識の習得による応用力、実践力の向上の希望が高く、カリキュラム内容への希望でもそれらを反映した専門的知識を習得できる内容、また応用・実践力に重点を置いた内容への要望が高かった。看護職は専門性が高く、医学の進歩に追従していく必要性があり、また高度な知識、技術、判断力、教育能力等が要求される機会が多く、その様なことが専門的知識の習得、実践的な能力を学ぶことへの高い希望と結びついたものと推考された³⁾。上述の様に積極的に学び直しを希望する人が多く、その目的も明確になっているが、日本では社会人の学び直しは普及しておらず、大学生総数に占める25歳以上の割合は経済協力開発機構諸国平均を大幅に下回る1.9%と報告されている⁴⁾。学び直しを阻害する要因として費用が高すぎる、勤務時間が長くて時間が無い、職場の理解が得られない事が大きな理由とされているが⁴⁾、今回の意識調査結果でも同様であった。学び直しを行う際の職場への希望では通学期間中の長期有休休暇の取得、また受講を受けやすくするフレキシブルな労働時間と授業料の援助の希望が多く、これらの結果は学び直しの機会を阻害する要因と直結する今後の大きな課題である。

今回の意識調査結果を分析すると学び直しの機会を増やすには個人の努力のみでは限度があり、職場や公的機関の支援が重要と考えられた。早稲

田大学の「社会人の大学院教育の実態把握に関する調査研究」⁵⁾では過去3年間に従業員を大学院へ派遣したのは調査企業の8.0%と低値であった。授業料の負担状況では自己負担が87.5%、企業負担12.1%、大学負担（給付金型奨学金等）5.4%、政府負担（教育訓練給付金）1.6%で、自己負担が圧倒的に高かった。学び直しによる従業員の能力開発・向上は従業員個人と企業の双方に利益をもたらすものである。看護師の離職率は他の職業と比較して非常に高く、その要因として教育訓練の機会が十分に与えられていない、キャリアアップを自分の努力で行っても正当に評価されない等が指摘されており¹⁾、学び直しの機会向上と対応の改善は離職を抑える大きな手段になると思われる。学び直し増加の一手段として他者からの勧め（メンターの存在）を有効とする報告⁶⁾もあり、専門職的自律をキャリアアンカー（キャリアの拠り所）の一つとする考え方に結びつく⁷⁾とされている。

今回の意識調査の問題点として、回収率が20.7%で低値であり、その結果、調査結果の偏りが生じた可能性がある。

VI. 結論

1. 看護師として病院勤務後学び直しを希望する人が多かった。
2. 希望する学び直しの内容として専門的知識の習得、基礎的知識習得による応用力、実践力の向上が高かった。
3. 主な学び直しの阻害要因は費用、勤務と受講の時間調整の困難性、職場の理解であった。
4. 今後、学び直しの機会を増やすには個人の努力の他に、職場、学び直しのプログラム提供校、また公的機関の支援が重要と考えられた。

VII. 引用文献

- 1) 勝又里織・林真紀子・廣山奈津子・他. 中堅看護職者が抱える問題と教育プログラムの検討-学び直し教育プログラム受講申込者を対象として、お茶の水看護学雑誌、2：1-10、

- 2008.
- 2) 林真紀子・勝又里織・廣山奈津子・他. 中堅看護職者の学習ニーズと学びのプロセス-社会人学び直しニーズ対応教育プログラムの評価、お茶の水看護学雑誌、2：11-22、2008.
- 3) 中河美和子、中堅、ベテラン看護師の退職について現在の看護の危機を考える、看護実践の科学、33：17-20、2008.
- 4) 二宮彩子・後藤孝子・本田彰子・他. 中堅看護職者の学習環境と学びのプロセス（第3報）-「学び直し教育プログラム」受講後の自己評価を通して、お茶の水看護学雑誌、1：29-36、2009.
- 5) 松居辰則. 社会人の大学院教育の実態把握に関する調査研究、平成21年度先導的大学改革推進委託事業. 早稲田大学・人間科学学術院、2010.
- 6) 今掘陽子. 看護師の専門的自律性獲得とメンタリング、日本看護研究学会誌、31：55-64、2008.

表 1. 仙台青葉学院短期大学看護学科卒業生の大学等における学び直しに関する意識調査内容及び結果

問 1	年齢分布(n=61)	
	25 歳未満	59%
	25-30歳未満	25
	30-35歳未満	11
	35-40歳未満	0
	40-45歳未満	2
	45-50歳未満	2
	50歳以上	2
問 2	性別(n=61)	
	男性	9%
	女性	91
問 3	勤務体系(n=61)	
	1. フルタイムで働いている	91%
	2. パートタイム、アルバイトなどで働いている	2

	3. 身分が保障されたまま休職	2
	4. 求職中又は今後求職予定	2
	5. 無職で、当面求職する予定ない	2
	6. その他	2
問 4	問 3 で 1、2、3 と回答者の職種(n=56)	
	看護師	96%
	保健師・助産師	2
	パート・アルバイト（非正規社員・職員）	2
問 5	現在の役職(n=61、未回答=2)	
	一般社員・職員クラス相当	94%
	係長、主任クラス相当	1
	その他	1
	未回答	3
問 6	現在の従事内容(n=61、未回答=2)	
	医療福祉	93%
	その他	3
	未回答	3
問 7	所属する会社や事業所の総従業員数（総職員数）(n=61、未回答=3)	
	1001-5000人	27%
	101-300人	22
	301-500人	22
	501-1000人	22
	51-100人	3
	未回答	4
問 8	所属する会社や事業所の所在地(n=61、未回答=6)	
	宮城県	64%
	東京都	12
	神奈川県	3
	山形県	3
	岩手県	1
	福島県	1
	埼玉県	1
	千葉県	1
	未回答	10
問 9	大学等で学び直しを行う際の職場への希望（3つまで選択可）(n=61)	
	通学期間を長期有給休暇とする	73%
	授業料の一部もしくは全部会社(事業所)が補	

助する	59	学位取得のため	9
授業のある時間帯は、早退を許す、休めるようにフレキシブルな労働時間とする	47	現在とは違う職場・仕事につくための準備をするため	8
大学等へ通って卒業資格を得たものを評価する仕組みを作る	38	昇進・昇級のため	6
大学等への通学が原因で、評価を下げるなどの不利益が無いことを確約する	31	社外等の人的ネットワークを得るため	6
大学等に学んでいることを公言しづらい雰囲気をつくす	11	現在もしくは別の職場へ復帰するための準備をするため	3
無給で構わないので、長期休暇を取れるようにする	8	問14 大学等で学び直しの機会を阻害する要因(2つまで選択可)(n=61)	
特にない	5	費用が高すぎる	66%
問10 大学等での学び直し後の職場処遇への希望(n=61)		勤務時間が長くて十分な時間が無い	59
給与や手当での増額	64%	職場の理解が得られない	36
希望の部署への配置転換	28	処遇の面で評価されない	13
昇進・昇級	2	自分の要求に適合した教育課程がない	5
他の企業や事業所への転職	2	その他	6
特にない	5	問15 大学等の学び直しを通じて、特に身につけたい知識・技能・資質(5つまで選択可)(n=61)	
問11 社会人として学び直しの機会の有無(n=61)		専門的知識	75%
1. 条件が整えば是非受けたい	72%	リーダーシップ・実行力	42
2. 必要と思う	13	応用力・柔軟性	41
3. 必要と思わない	16	問題設定・解決能力	30
問12 問11で1、また2と回答者の学び直しのタイミングと期間(n=53)		コミュニケーション能力	28
1. 5年毎に6ヶ月間	70%	計画力・プロジェクト管理能力	23
2. 5年毎に1年間	15	プレゼンテーション能力	22
3. 10年毎に6ヶ月間	7	基礎学力	19
4. 10年毎に1年間	4	論理的思考能力	17
5. その他	4	自己管理能力	16
問13 問11で1、また2と回答者の大学等で学び直しをしたい理由・目的(3つまで選択可)(n=51)		提案力	13
現在の職務における先端的な専門的知識を得るため	45%	情報分析能力	13
現在の職務を支える広い知見・視野を得るため	42	社会人としての目的意識・意義	9
現在の職務に直接必要な基礎的知識を得るため	41	社会性・協調性	8
資格取得のため	39	倫理観・責任感	6
		粘り強さ・タフさ	5
		独創性	5
		数量的能力	0
		特にない	3
		問16 大学等のカリキュラムとして特に重視してほしい内容(3つまで選択可)(n=61)	
		特定の職種の実務に必要な専門的知識・技能を習得できる内容	47%

応用・実践問題の研究・学習に重点を置いた内容	41	インターネットなどによる授業ができるシステムを整備すること	23
特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容	39	入学時期をフレキシブルにすること	22
座学のみならず、実習等実践的な講義を重視した内容	34	体系的な教育カリキュラムを充実させること	20
幅広い仕事に活用できる知識・技能を習得できる内容	23	教員を充実させること	19
最先端にテーマを置いた内容	22	授業に参加できない場合、費用を一部もしくは全学返還すること	16
基礎理論の研究・学習に重点を置いた内容	19	教育訓練給付制度を活用すること	13
分野横断/学際性に配慮した幅広い視点からの研究・学習が可能な内容	13	シラバスをより詳細化させるとともに外部からも参照可能とすること	13
研究推進能力を身につける内容	8	体験入学を実施すること	8
特がない	3	科目等履修制度を活用すること	6
問17 大学等で特に重視して欲しい教育方法(3つまで選択可)(n=60)		履修証明制度を活用すること	3
専門知識・基礎知識の復習	42%	長期分散型のコースを充実させること	2
最先端の講師による講義	34	特がない	5
実習・演習	30		
個別の教育指導	27		
実地での体験活動を伴う授業	27		
事例研究・ケーススタディー	20		
アクティブラーニングや課題解決型学習	19		
ICTを活用した教育方法	14		
グループワーク・ディスカッション	14		
レポート・論文作成指導	11		
特がない	3		
問18 大学等において教育環境面で特に重視してほしいこと(3つまで選択可)(n=61)			
授業料を安く設定すること	61%		
短期間で終了できるコースを充実させること	56		
夜間・土、休日等の社会人に配慮した時間帯での授業を開講していること	41		
休学や退学・再入学を柔軟に受け付けること	31		
時間帯を自由に選択可能とすること	30		
授業単位で学費を支払えるようにすること	25		